

法界寺所蔵「東播八郡總兵別所府君墓表」に関する所見

依 藤 保

1. 史料名

法界寺所蔵「東播八郡總兵別所府君墓表」(石造碑)

2. 所在・材質および法量

墓表(以下「墓碑」という)は浄土宗西山派の寺院虚空山法界寺境内、三木市別所町東這田字生木51番地先に所在する。

墓碑本体の材質は砂岩。法量は、正面幅76cm、背面幅70.5cm、高さ152cm超、厚さ31cm。三段の台石上に座すが、上台と中台は後補。笠も後補。

3. 建立時期・建立者・碑文作者・現況

墓碑に「延寶六年歲次戊午春正月十有七日」「東播三木郡十二村里長各募衆縁共住持禪空素伯立」との刻銘があり、延寶6年(1678)正月17日に、美囊(三木)郡内12村の里長(さとおさ)と法界寺住持禪空素伯が衆縁を募って建立したことがわかる。碑文はすべて陰刻。

碑文の作者は、木下順庵の高弟で、京都在住の柳川順剛。藤原惺窩のひ孫弟子にあたる儒学者。近江柳川(彦根市)出身なので「江東 柳 順剛」と記している。

墓碑は長年にわたり外気にさらされ、風雨・日光・寒暖差の影響もあって、劣化が進んでいる。最下部は雨水や湿気の滞留による剥離・剥落が激しい。このため刻銘の一部が失われている。天保11年(1840)以前に写し取った法界寺所蔵の拓本を見ると、すでにこの時期に剥離・剥落があったことがわかる。ほかは、風化がみられるものの、341年が経過している割には良い状態にあり、刻銘の判読が可能である。

4. 内容と意義

天正8年(1580)正月17日に自害した三木城主別所長治の百回忌に向けて、建立された。三木郡12村はおおむね中世美囊(みなき)本郷内に属した地域、ほぼ現在の三木市別所町の地域と思われる。墓碑のある法界寺は、敗死した長治の菩提を弔う寺として知られ、忌日に法要を催して、三木合戦絵図により当時の戦況を物語る絵解きが行なわれる。絵解きは、非業の死をとげた長治の怨霊をしずめ、逆に強力な守護神とする慰霊鎮魂を目的とする芸能である(庵途巖「鎮魂の絵解き」/『昔話伝説研究』第5号、のち『三木史談』第4号に転載)。これは御霊信仰である。法界寺が長治の菩提所となったのは、この南東の裏山に羽柴秀吉方の部将宮部善祥坊継潤が陣所(法界寺山ノ上付城)を置いたことが影響したものと考えられる。三木城包圍網の建設には、多数の住民が動員された。これにより羽柴秀吉は勝利し、東播磨の中世は終焉を迎えた。美囊本郷石野村の領主石野氏満も三木城に籠城しており、この地域の住民たちは凶らずも別所氏や石野氏に敵対する立場におかれた負い目があった。

柳川順剛は、碑文に、遠祖敦範を記し、始祖則治から始まる赤松別所氏歴代の事績を述べ、長治の威徳を讃える。威徳は、大村由己が「播州御征伐之事」に述べる、領主として自らの命と引き替えに籠城の兵士・民衆の命を助けた行為である。天正5年の上月城では、兵だけでなく、女・子供も皆殺しにされている。碑文の記述内容は必ずしも史実とはいえないが、別所軍記だけでなく、天隠龍沢の「赤松別所大蔵少輔則治公寿像贊」や仁如集堯の「前別所画像讚」を典拠とするなど、地域では得られなかった文献を利用している。

5. 評価

上記のとおり、墓碑は美囊郡内12村の住民が三木赤松別所氏歴代の事績を記述し、城主の命と引替えに籠城者の命を助けた別所長治の威徳を讃えたものである。この威徳については、秀吉の徳を顕彰するために大村由己が創作したとの説（小林基伸「三木合戦の経緯」／三木市教育委員会『三木城跡及び付城跡群総合調査報告書』、同「三木城の最期について」／『歴史と神戸』第293号）がある。いまここでその当否を述べることは避ける。しかし、城兵等の助命が事実でないとしても、墓碑がその価値を損なうことはない。墓碑は法界寺で催される鎮魂の絵解きと対をなすものである。墓碑建立は三木合戦終結後100年という時期にあたり、中世が消え失せていく時代であった。人間が100年生きるのは希なので、世紀を超えて歴史は伝わらない。墓碑に記されることによって、12村住民の思いは現在まで伝えられた。

また、墓碑に綴られた三木赤松別所氏歴代の事績は、播磨では忘れられていた歴史を史料から読み解くものであった。これは平野庸脩の『播磨鑑』（宝暦12年、1762）に紹介され、以後別所氏および同氏にまつわる播磨の歴史を語る上での典拠とされた。天川友親（喬木堂）の編んだ「播陽諸家大系図」（宝暦10年）と「赤松諸家大系図」（宝暦12年）を見較べると、両者の内容は異なっており、後者では前者にない墓碑からの引用記事がみられる。墓碑建立は画期的な出来事であった。さらにこれは、延宝6年という年次を節目とすることによって、江戸時代に書された播磨の書誌・系図等の成立時期・内容の検討にも役立つことになる。墓碑は、別所氏・三木市の歴史のみならず、播磨の歴史研究にとって重要な意義を有する史料といえる。

以上を要するところ、墓碑は、三木市指定文化財に値するに十分な価値を有するものと評価する。

<墓碑に関する参考文献>

天隠龍沢「赤松別所大蔵少輔則治公寿像贊」（『翠竹真如集』／『五山文学新集』第5巻、1971）

仁如集堯「前別所画像讚」（東京大学史料編纂所謄写本『鏤氷集』天）

大村由己「播州御征伐之事」（『群書類従』第21輯）

来野弥一右衛門「別所長治記」（『群書類従』第21輯）

平野庸脩『播磨鑑』（歴史図書社版『播磨鑑（全）』、1975）

三木文庫『圖説三木戦記』（1968）

別所公礼贊の会『三木城主別所長治公碑文』（1980）